

令和 6 年度

中山間地域オンライン診療・服薬指導
実証実験事業中間報告書
(R6 年 4 月～R6 年 9 月末)

令和6年 10 月

富山市

1 実証実験の概要

(1)背景と目的

本市の中山間地域や郊外部においては、人口減少と高齢化を背景に、医療機関が少なく、公共交通機関の利便性が低いために、通院負担が大きいといった地域課題が深刻化している。

こうした中、本市では、スマートシティ政策として、「富山市スマートシティ推進ビジョン」における、「誰一人取り残されことなく便利で安心して暮らせるまち」を目指しており、ICT技術などを活用して中山間地域や通院困難な高齢者にも医療が提供できる体制の構築を図るため、大山地域において、地域に所在する唯一の医療機関である「おおやま病院」及び「チューリップ大山薬局」と連携し、令和5年度から2年間、「中山間地域オンライン診療・服薬指導実証実験事業」に取り組むこととしたものである。

(2)対象地域

実証実験は、大山地域を対象とする。

【令和5年度】小見・牧地区 ➡ 【令和6年度】大山地域全域へ拡大

地区	総人口	65歳以上人口	75歳以上人口	高齢化率	R6対象	R5対象
大山地区	761	414	273	54.4	○	
(再掲)						
小見地区	459	*233	*157	*53.0	○	○
牧地区	55	*27	*19	*64.3	○	○
上滝地区	2,453	1,053	627	42.9	○	
福沢地区	792	322	270	40.7	○	
大庄地区	4,744	1,413	771	29.8	○	
大山地域合計	8,750	3,202	1,941	36.6	—	—

*小見地区1町内(本宮はなぎり)、牧地区2町内(大山松木、中地山)を除いた値

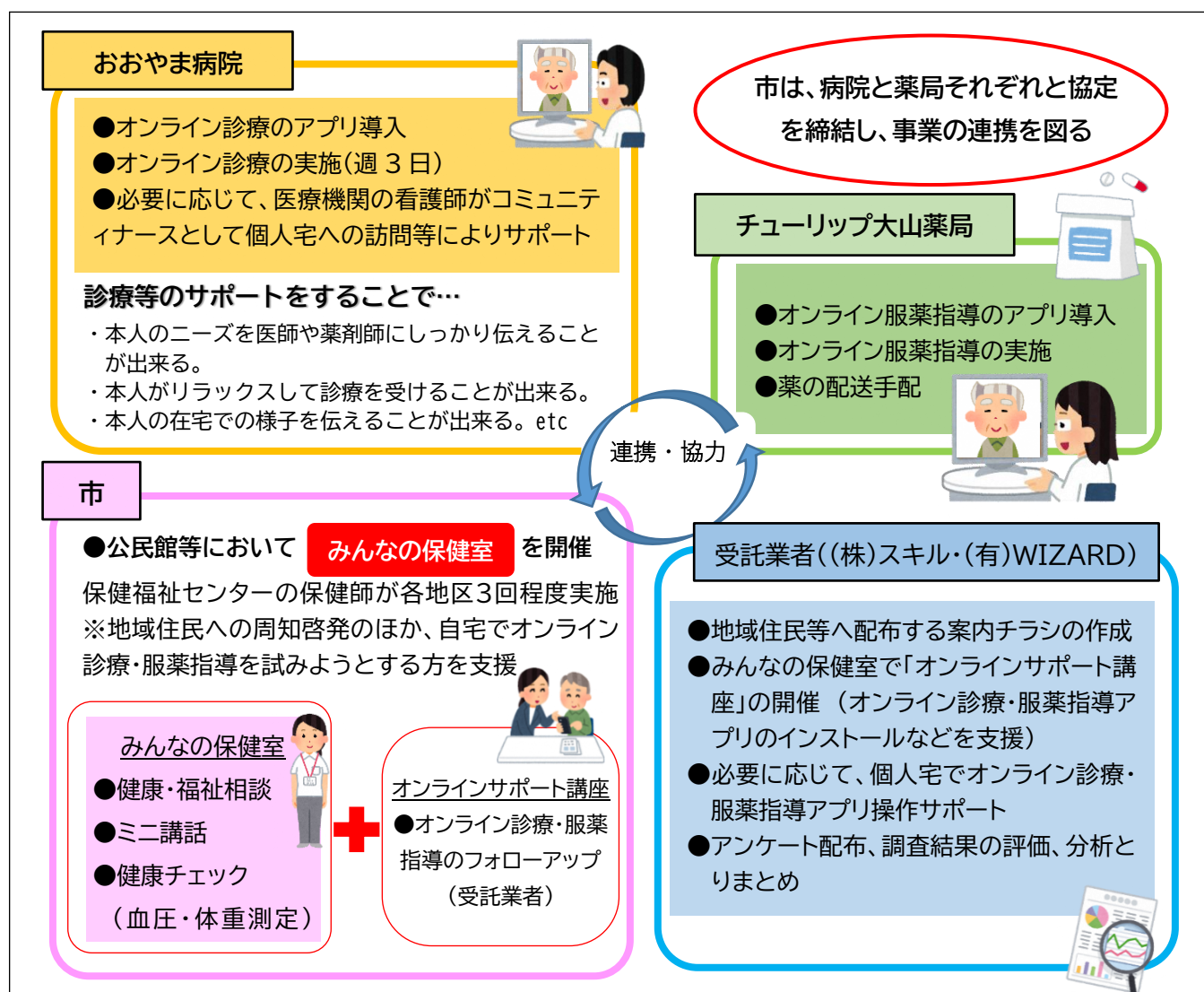
令和6年3月末現在



(3)実施体制と役割

実施機関	役 割
おおやま病院	オンライン診療の実施
チューリップ大山薬局	オンライン服薬指導の実施
株式会社スキル	アプリのインストールサポート及びオンライン診療・服薬指導実施時のスマートフォン等操作サポート 「みんなの保健室」でのオンラインサポート
有限会社 WIZARD	実証実験の評価・分析
大山保健福祉センター	「みんなの保健室」での健康・福祉相談や健康講話等
福祉政策課(R5) まちなか総合ケアセンター(R6)	事業全般の統括・調整

●関係機関連携図



(4)令和6年度の取り組み

○ R5 年度取り組み

- ① 中山間地域住民に対するアンケート調査（令和5年9月）
- ② オンライン診療・服薬指導の実施（令和5年10月～）
- ③ 「みんなの保健室」の開催（令和5年8月～12月）
- ④ オンライン診療体験会（おおやま病院内で実施）（令和6年1月～）

○ R6 年度取り組み

① オンライン診療・服薬指導の実施(令和5年10月～令和7年3月)

市が指定する医療機関（おおやま病院）及び薬局（チューリップ大山薬局）において、オンライン診療・服薬指導アプリを活用して、週3日（月・水・木の午後2時から午後3時）、オンライン診療・服薬指導を実施する。希望する患者は、自宅でスマートフォン等を使って受診し、服薬指導を受ける。

処方された薬剤は、後日、患者宅へ配送され、実証実験期間中は、市が配送費を負担する。

機器の操作に不安がある方に対しては、アプリの操作等をサポートする支援者（受託業者）が、アプリのインストールのサポートを病院等で行うとともに、必要に応じてオンライン診療・服薬指導の実施時に、コミュニティナースが患者宅を訪問しサポートを行う。

② オンライン診療体験会(おおやま病院で実施)(令和6年1月～11月まで)

令和5年度は「みんなの保健室」と同じ会場（市立公民館）でアプリのインストールサポートを行っていたが、おおやま病院内で医療職の参加勧奨から一貫して実施する方法が参加者にとって利便性が高いことが予想された。そこで、おおやま病院内で、実際のアプリを使用したデモンストレーションを行い、オンライン診療・服薬指導を体験してもらい、その利便性を体感してもらう。また、希望者にはアプリのインストールサポートを実施する。

③ 参加意向調査(令和6年5月～)

令和5年度の参加者は2名であったことから、実証実験への参加・不参加の理由を知ること、参加の動機づけの方法の検討に役立つと考えた。令和6年5月から診察時に病院がオンライン診療に適していると選定した患者（大山地域在住）に対し、事業説明と同時に、オンライン診療・服薬指導実証実験参加の意思とその理由について聞き取り調査を行う。

④ 事業の効果的な周知

令和6年4月20日号広報とやまに併せて大山地域3,254戸へ周知ちらしを配布。医師や看護師からの参加勧奨とは別に、病院の待合室で診察待ちの患者に直接声をかけ、オンライン診療・服薬指導実証実験の案内を行う。また、市立公民館だけでなく自治公民館でも「みんなの保健室」を開催し事業の説明や、オンライン診療のデモンストレーションを行う。

⑤ 実証実験事業の評価・分析(事業期間を通して)

実証実験に協力していただいた医療機関や薬局の関係者、患者からの聞き取りのほか、オンライン体験会に参加いただいた方へアンケート調査を行い、実証実験の評価・分析をし報告書として取りまとめる。

○ アンケート調査

① 参加者アンケート調査（郵送またはヒアリング）

- ・事前アンケート（初回オンライン診療・服薬指導前に参加者へ郵送）
- ・事後アンケート（オンライン診療・服薬指導実施後に参加者・医療機関・薬局へ毎回実施）
- ・最終アンケート（実証実験終了時に参加者へ実施予定）

② 参加意向調査

対面診療時に医師または看護師から対象者へ実施

③ オンライン診療体験会参加者アンケート調査

○ ヒアリング調査

以下の関係機関にヒアリング調査を実施

- ① おおやま病院（医師、看護師、事務）
- ② チューリップ大山薬局（薬剤師）
- ③ オンラインサポート業者
- ④ 大山保健福祉センター（保健師）

2 結果概要(R5 年 10 月～R6 年 9 月末)

【参加状況】

- ・参加者人数は 17 人で男性 5 人、女性 12 人、平均年齢は 72.8 歳だった。
- ・普段の通院手段としては自家用車（自分で運転）15 人、自家用車（家族などが運転）1 人、病院の送迎バスの利用が 1 人だった。
- ・おおやま病院から距離的に最も遠い大山地区（小見・牧地区含む）の参加者は 3 人で、病院から 3 k m 以内に住む患者の参加が多かった。
- ・17 人中 7 人（28 回中 13 回）にトラブルがあった。

【アンケート結果(初回診療前) N=14】

- ・約 7 割以上の参加者が参加のきっかけとして「予約が取れて時間を有効に使えると思ったから」と回答している。
- ・参加のきっかけとして約半数が「説明会やデモンストレーションに参加したから」と回答している。
- ・期待することとして「病院での待ち時間が軽減する」が 13 人、「通院の時間が軽減する」が 10 人が多い。
- ・半数近くの方がアプリの操作が不安と回答していた。

【アンケート結果(初回診療後) N=15】

- ・初回にトラブルが多く確認されたことから、原則として初回はオンラインサポートの利用を勧めたこともあり、11 人がオンラインサポートを利用した。
- ・オンライン診療・服薬指導参加者の 9 割以上が「大変満足」「概ね満足」と回答した。
- ・参加者の 9 割以上の方が「継続したい」と回答した。

【オンライン診療体験会参加者アンケート調査 N=68】

- ・参加者は 70 代が 25 人で最も多く、次いで 80 代が 22 人だった。
- ・男女別では女性 40 人、男性 23 人と女性の参加者が多かった。
- ・参加者にアプリの操作性を質問したところ約 7 割の方が「難しくなかった」と回答した。一方で、操作が「難しかった」と感じた理由は、アプリの操作よりもスマートフォンの操作が難しいとの回答が多かった。
- ・オンライン診療を体験した方のほとんどの方が画像や音声について「支障なかった」と回答した。
- ・体験した方の約 7 割が「オンライン診療・服薬指導を受けてみたい」と回答した。

【オンライン診療・服薬指導参加意向調査 N=700】

- ・スマートフォンなどのオンライン診療・服薬指導を行える機器については、「60代以下」で8割以上が保有、70代から保有率が低くなり、80代に関しては約7割の方が保有していなかった。
- ・「参加する」は47人で全体の7%だった。
- ・「参加する」理由は、『通院の移動時間が無くなる』や『病院での待ち時間が無くなる』など時間に対してメリットを感じている方が7割を超えていた。
- ・「参加しない」理由は『通院できる』が47%、『今の通院に不都合がない』が28%と多かった。
- ・60代は他の年代と比較して『将来通院が出来なくなったら必要かもしれないが今は必要ない』と回答する割合が最も高かった。